

地域活性化に繋がる政策提言・地域社会貢献活動を情報発信しよう

高校生、大学生、企業、行政、地域でつくろう！

「希望」のある北海道の未来

北海道学生研究会 SCAN

(Sophisticated Community and Academics for Networking)

北海道学生研究会 **SCAN**

2020 年度実施企画

SCAN 運営実行事務局(2020)

北海道学生研究会 SCAN2020 大会開催に向けて

代表挨拶

拝啓

この度、北海道学生研究会 SCAN 第 11 期 運営代表を務めさせていただきます、札幌大学地域共創学群 経営学専攻 3 年の蔦井 義騎(つたい よしき)です。運営役員も代替わり致しましたのでご報告させていただきます。

さて、おかげをもちまして、北海道学生研究会 SCAN は今年で 11 年目を迎えることができました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大もあり、学生をはじめ多くの方々が環境の変化に伴い、影響を受けられたと存じます。しかし皆様のおかげで本年もこの大会を開催することができます。

今後とも弊会をご支援くださります皆様に胸を張れるような研究発表会になるよう運営役員一丸となり、努めて参りますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

北海道学生研究会 SCAN(第 11 期)
学生運営代表 蔦井 義騎
令和 2 年 7 月 30 日

北海道学生研究会 SCAN2020 大会開催に向けて

顧問挨拶

北海道学生研究会 SCAN は今年 11 年目を迎えました。

昨年は、中学・高校生に浸透し始めた SDGs を絡めた地域づくりも意識した上で、節目の第 10 回記念大会を開催しました。また同時にこれまでの北海道学生研究会 SCAN の活動を振り返り、総括を行うとともに、次の 10 年を模索するためのワークショップも開催しました。

今年はその意味で、北海道学生研究会 SCAN も新たな門出を迎える予定でしたが、2 月以降の新型コロナウイルスの道内感染により、社会経済情勢は大きく変貌しました。

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染抑止から、生活環境、経済環境は一変しました。6 月には「新北海道スタイル」が提唱され、新型コロナウイルスとの共生を図りながら新しい生活や経

済活動の模索が始まりました。2～5月は行動自制を前提とする生活環境でしたが、6月以降は共生を前提にした生活環境を創造する局面に変わりました。

コロナ禍にあって、これまで当たり前に行われてきた地域の活動や地域活性化事業も休止や大規模な縮小化を余儀なくされていますが、活動の休止や停滞は地域の疲弊問題を少しも食い止めることは出来ません。今こそ知恵や工夫を活かして地域の再生や地域活性化につながる活動を真剣に考えるべきなのではないでしょうか。

北海道学生研究会 SCANはこの難題に立ち向かうべく、初のオンライン開催を実施することにしました。いろいろ悩みながらも運営事務局を担う学生たちがこの難題に真摯に向き合い、1つの解を導き出してくれたことに感謝します。また、このオンライン開催に賛同し、今年も参加表明してくれた学生さん、また協賛頂きました関係者の皆さま、地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

今年の研究テーマは昨年に引き続き、「持続性のある地域づくり」と聞いています。2年連続で同じ統一研究テーマが選ばれたことには大きな意味があると思います。

去年は、統一研究テーマ同様に、北海道学生研究会 SCANの活動も今後の10年をどう見据えるか、またどうありたいかを問うものでしたが、今年はその新たな第一歩を確かなものにするための挑戦の意が込められていると思います。

第11回大会が皆さまにとって、新たな第一歩を踏み出す挑戦につながることを祈念したいと思います。

北海道学生研究会 SCAN 顧問／
札幌大学地域共創学群 経営・会計学系教授
中山 健一郎
令和 2年 7月 13日

「持続性ある地域づくり」

【テーマの説明】

今年は新型コロナウイルスの影響が長期化し、3密回避にはじまる行動自粛のなか、人との関わり方、生活の仕方が大きく変わろうとしています。

北海道スタイル宣言は、そんな中でも普段の日常を少しでも取り戻す新しいルールを示していますが、感染抑止の観点からこれまでふつうに行われてきた地域内及び地域間のイベントも自粛傾向が高くなり、中止や延期になっています。大きな環境変化のなかで地域の活動も手探りや模索が続いており、「やりたいことができない」、「やる気が起きない」のような思考も芽生えているように思います。

こうしたなかで地域は何をすべきでしょうか？また、何ができるでしょうか？

私たち学生はこういう苦しい時こそ、地域の助けになれるような活動や研究は大切であり、これまで積み上げてきたものを続けていくべきではないかと考えます。また、こうした時であるからこそ地域貢献活動や研究の真価が問われるのではないのでしょうか。

私たちは昨年度のテーマである「持続性のある地域づくり」を今年も採用しました。地域活性化には人が集まり、交流が生まれ、住みやすい地域づくりも大事になってきます。活性化を施し、持続性を生み出すためには地域の人々のやる気、地域の賑わいを取り戻したい気持ちなど、地元民の想いが大切になってきます。つまり私たちは地域を元気づけることができるように「やりたかった」ではなく「やれることをやる」を考えることが最も世の中に貢献できることだと考えます。

このことから、地域の持続性に重きを置き、私たちはこれを主軸としたテーマを設けました。

●協賛企業(2019年度実績)

共催：株式会社 北海道新聞社

特別協力：経済産業省北海道経済産業局、株式会社 北海道銀行

後援：札幌大学

協賛：株式会社 四季の旅、株式会社モロオ、札幌大学生生活協同組合

株式会社 阿部新聞店、株式会社 北海道アルバイト情報社、阿寒バス株式会社、

株式会社ユタカコーポレーション、一般社団法人 釧路建設業協会、釧路商工会議所、

一般社団法人 釧路水産協会、釧路信用金庫

…今後も協賛企業の拡大に努めて行きます。地域社会貢献、地域活性化に力を入れている企業、SCAN活動を応援して下さる企業を中心に活動PRを行っていきます。

事業の紹介

○SCAN 中間発表会 (第 3 回)

…12 月の合同研究発表会への出場のため、研究発表の中間報告会を開催し、発表内容のブラッシュアップを図ります。

開催日：10 月 24 日

場 所：オンライン (zoom)

○第 1 回オンライン合同研究発表会 (通算第 11 回大会)

…日頃の北海道での地域活性化、実践的な地域社会貢献の活動成果、研究成果を披露する大会です。今年度は、コロナ禍の影響から初のオンライン開催 (Zoom を予定) を予定しています。北海道の地域活性化に実践的な地域社会貢献への取り組みを行っている、あるいは関心を持つ全国の大学生や高校生を対象に呼びかけ、研究発表、活動報告、聴講参加を募ります。

2019 年度実績は 4 大学 11 発表事例でした。

開催日：12 月 19 日

場 所：オンライン (zoom)

SCAN とは何か？

SCAN は「Sophisticated Community and Academics for Networking」の略称。地域に住む住民、企業、自治体と大学が結びつくことによって、よりよい地域、コミュニティを作っていこうという思いが込められており、道内の大学を中心に地域社会の発展に資する研究を行うことをいいます。SCAN の運営は学生主体で行っており、大学教員が顧問としてサポートしています。

(1)活動の目的

地域活性化に繋がる政策提言・地域社会貢献活動を情報発信することが活動目標です。そのために以下の活動をおこないます。

- (a)日頃のゼミでの研究活動を披露しあい、各大学ゼミの相互研鑽を図ります。
- (b)研究活動を通じて地域行政や住民、企業との交流を深め、地域社会貢献に資する活動を行います。
- (c)地域活性化につながる政策提言を行い、北海道の地域発展に資する貢献を行います。

(2)活動の特徴

- (a)地域研究に意欲的に取り組み、実践的な活動を行っている全道主要大学のゼミが参加します。

(b)年1回、一同介して日頃の研究発表をおこないます。

(c)2010年に発足以来、これまでに10回を開催。参加大学は道内だけでなく、道外からの参加大学もあります。

(d)これまでSCANでの発表の傾向は、「課題研究発表」でしたが、近年は「政策提案重視」に変化してきています。但し、実現可能性の面でやや弱く、アイデア段階に留まる研究もあります。

(e)2017年度より主催校が変更しています。釧路(釧路公立大学)から札幌(札幌大学)に運営事務局を変更しています。

(3)SCANの研究視点

(a)北海道の地域活性化

(b)政策提言

(c)実践的な地域社会貢献

(d)学生ならではのユニークなアイデアの創出

(e)地域住民、行政、企業、大学が結びつき、よりよい地域、コミュニティを形成。

○SCANの魅力ー参加のメリット

参加大学生

①大学の最新の発表事例に触れ、今、大学生が地域社会貢献に何をすべきかを知り、仲間を得る機会があります。

②地域企業や関係機関、行政との直接的交流の場があり、普段の疑問や今後の活動について協力、参画の機会があります。

③事例発表を行う学生には同世代の各大学の学生との交流のほか、研究発表を通じて審査員からの助言や各関係機関、企業からの助言を得て、相互研鑽、相互扶助の場を得ることができます。

参加高校生・高校教員

①地域志向、地域の将来を真剣に考える大学生との交流ができます。

②大学でどのような研究が行われているのか、そもそも大学とは何か、地域社会貢献に取り組む大学の姿勢を見ることができます。

③協賛企業との接点や交流ができ、地域社会貢献に熱心に取り組む企業の活動や取り組みが理解できます。

④各高校での取り組みをこのSCAN活動を通して発信できます。

参加企業／協賛自治体／各関係機関

- ①参加学生や高校生、高校・大学教員に対して企業活動や社会貢献への取り組みをPRできる機会があります。
- ②今日の学生や高校生が地域の活性化、地域振興にどんな取り組みをしているのか、またどのようなことに関心を持っているのかをオンライン対話により知る機会があります。
- ③SCAN 活動の情報を逐次提供します。
- ④各大学に課題先進地域の調査研究等を呼びかけていきます。
- ⑤大学ゼミの取り組み情報を提供していきます。

○参加方法（研究発表参加と聴講参加）

●研究発表の枠組み

研究部門	概要	推奨対象
実現可能性追求研究	地域政策の実現可能性を重視した研究部門 大学ゼミ	大学ゼミ 高等学校
ゼミ研究（分析）	ゼミ研究(分析) 日頃のゼミ研究を対象として、 政策提言よりも分析を重視した研究部門	大学ゼミ 高等学校
活動報告	活動報告 研究レベルにはないが、 活動報告に位置づけられる部門	大学ゼミ 高等学校

●参加方法

聴講参加	本活動に関心を持っていただける高校生、すでに活動実績のある高校生、指導を行ってられる高校教諭、大学にて研究活動を行っている学生、ゼミ、また研究・教育に携わる大学教員、本活動にご理解のある企業関係者、行政関係者にぜひ参加頂きたいです。
------	--

発表参加	すでに活動実績のある大学ゼミ、新たに発表を希望する大学ゼミに発表機会を提供します。 今後は地域社会で、すでに貢献されている個人や組織にも対象を広げ、活動報告の場を広げていこうと思います。
協賛参加	本活動にご理解いただける企業関係者の皆様にご参加頂きます。企業 PR の場も提供できるよう検討していきます。昨年実績では企業 PR コーナーの設置、活動紹介のプレゼンテーションの機会を設けました。

○参加実績のある大学と高校の一覧

札幌学院大学	北海学園大学
北海道教育大学釧路校	釧路公立大学
大阪経済大学	奈良県立大学
北見工業大学	北星学園大学
島根県立大学	札幌大学
公立ほこだて未来大学	新陽高等学校
名寄市立大学	

●発表参加のスケジュール

エントリーの流れ	時期		備考
	中間発表会に参加する場合	合同研究発表会に参加する場合	
今年度の企画説明	8月中旬	8月中旬	今年度の企画説明(未定)、今年度の企画概要を各関係者(大学、高校、協賛企業、行政機関等)に配信、配布していきます。
今年度の参加意思確認	7月末	7月末	発表を予定される大学ゼミ、高等学校関係者には参加意思確認をおこなっていきます。

発表テーマ(仮)の送付	8月	11月中旬	発表を予定される大学ゼミ、高等学校関係者には発表の仮テーマをご提出いただきます。後日の変更は可能です。
発表テーマと概要の送付	10月上旬	11月中旬	発表テーマとその発表の概要についてお送りいただきます。当日の大会資料、審査員の募集、依頼、協賛企業への働きかけ、その他広告宣伝等に必要になります。
発表レジユメの送付	10月上旬	11月中旬	発表されるレジユメ(パワーポイント資料)をお送りいただきます。当日の大会資料とし、審査員への事前の配布を予定しています。
発表レジユメのデータ配布	10月上旬	12月上旬	参加者に当日の発表資料の配布を予定しています。当日に差替資料が出てくるのが想定されますが、ひとまずお送り頂いた原稿を元に作業をおこないます。
中間発表	10月24日(土)		大会当日に差替え資料やデータがある場合には、発表グループの責任において来場者への資料配布をお願いします。なお、後日の大会報告集作成のため、最終データのご提供をお願いしています。
合同研究発表会	12月19日(土)		

○これまでの活動実績(2010年～2019年 研究大会)

(1) これまでの研究テーマと優秀事例発表

一貫して地域をテーマにして大会テーマを設定してきた。

第1回(2010)合同研究発表会テーマ「地域」(2010年12月18日)

- ・学生団体の組織の設立。従来にない学生と地域の新たなつながりを創出して、地域に関する研究を行う。

第2回(2011)合同研究発表会テーマ「再生」(2011年12月10日)

- ・東日本大震災における多大な被害からの再生・復興や、地域の諸問題について様々な視点から再生・発展を目指す。

第3回(2012)合同研究発表会テーマ「連携」(2012年12月8日)

- ・新たに理系大学を加え、札幌でのカレッジフォーラムの開催を試み、学問と地域間の壁を越える連携を目指す。

優秀論文賞)

「地域医療連携における自治他病院の役割」

(札幌学院大学 加藤ゼミ)

「地域活性化のために地方大学に求められる意義と役割—経済・教育・研究の観点からの考察」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道新幹線についての考察—札幌延伸が地域に与える影響と課題」

(札幌大学 武者ゼミ)

第4回(2013)合同研究発表会テーマ「北海道の魅力～発見と活用～」(2013年11月30日)

- ・新たに道外大学を加え、10大学が参加。北海道の魅力や地域の諸問題について研究を行う。

優秀論文賞)

「旅行先選択行動の実証分析 - 根室地域における研究旅行の可能性」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道の自然エネルギー利用による地域の持続可能な発展の可能性」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「釧路管内における小児ワクチン接種の現状と摂取率向上のための課題」

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「消費者に北海道の旬を伝えるタッチポイントデザイン」

(公立ほこだて未来大学 高度ICT 海洋系)

第5回(2014)合同研究発表会テーマ「北海道の可能性」(2014年12月13日)

- ・従来の課題研究型から政策提言型への移行、最優秀論文を設ける。質の高い北海道の可能性について研究。

優秀論文賞)

「僻地、広域な地域における心臓リハビリテーション患者向けアプリケーションに関する研究

-北海道の事例に基づいた構築-

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「持続可能な別海酪農についての考察」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

「まちづくり型観光～フットパスによる内発的発展～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「観光資源の再発見～ないところにあるもの～」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

第6回(2015)合同研究発表会テーマ「地方創生と向き合う」(2015年12月12日)

- ・「釧路地域研究助成」を受け、従来の一般セッションに加えて釧路地域研究成果報告セッションを設けた。

優秀論文賞)

「ニセコに学ぶ地方創生のあり方と課題」

(札幌大学 中山ゼミ)

「フットパスが呼び覚ますコミュニティの多面的機能

—釧路市橋南地区を題材として—

(釧路公立大学 神野ゼミ)

第7回(2016)合同研究会発表会テーマ「スポーツといきる地域」

- ・東京五輪を4年後に控え、我が国のスポーツへの関心が深まる中で様々な分野に横断的なスポーツについて研究する。北海道経済産業局主催のRESAS分析フォーラム第1回大会に初参加。

優秀論文賞)

「地域特性に応じた総合型地域スポーツクラブのモデル提案～釧路におけるスケートを視点として～」

(北海道教育大学釧路校 内山ゼミ)

「橋南地区フットパス～地域と健康～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「地域経済における交通網のネットワーク効果」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

第8回(2017)合同研究発表会テーマ「地域イノベーション」

(サブテーマ:「地域特性の活用」、「スポーツコミュニティ」)

- ・地域の潜在的な資源の活用、掘り起しを通じてイノベーションの観点から地域振興のあり方を見直す研究。北海道経済局主催のRESASを活用した政策アイデア創出セミナー(2017.10.6)に参加。和歌山県主催の「第1回データ利活用コンペティション」の最終選考会に出場。協賛企業 NEC 賞を受賞。

(優秀論文賞)

「高校野球と地域活性化～甲子園出場は地域を元気にするか～」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「地域活性化に若者は必要。美唄市の滞在・交流人口の増大化への提言」

(札幌大学 中山ゼミ)

「シカの経済学—動物資源の経済的評価—」

(奈良県立大学 下山研究室)

第9回(2018)合同研究発表会テーマ「地域コミュニティ」

(優秀論文賞)

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～
(札幌大学 中山ゼミ)

統合型リゾートを日本で導入することの是非
(札幌大学 武者ゼミ)

地域愛の創出 ～廃校活用イベントによる実践的研究～
(北海学園大学 宮島ゼミ)

ご朱印めぐりが与える社会的経済的影響 – 奈良市全域の実態調査を通じて –
(奈良県立大学 下山研究室)

第10回(2019)合同研究発表会テーマ「持続可能な地域づくり」

・近年、国や国際団体だけでなく、地域や教育機関でも取り組まれている持続可能な開発目標(SDGs)に着目し、持続可能な地域づくりについて研究。

(最優秀賞)

「マッチングアプリを活用した空き家問題の解決及び地域活性化の推進」

(釧路公立大学 東ゼミC)

(優秀賞)

「ゲームを用いた環境教育の価値推計」

(北星学園大学 野原ゼミB)

(優秀賞)

「国際化する現代社会において札幌市が目指すべき都市計画」

(北海学園大学 宮島ゼミ)

○SCANの実績—研究発表の成果がどう実現したのか

第9回(2018)合同研究発表会 優秀論文賞受賞

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～
(札幌大学 中山ゼミ)

札幌大学の中山健一郎教授のゼミナールAチームによる研究が、昨年につき、優秀論文に輝きました。

岩見沢市の人口減少に歯止めがかからない中、駅前商店街の撤退や廃業により、空き商店が増え、荒廃化が進んでいます。それとともに、店主の高齢化による事業承継者不足の問題が深刻化しています。こうした中、岩見沢市ではまちなか再生計画を推進するものの、思うような効果が出ていませんでした。本研究では2012年からまちなか活性化の取り組みの一つとして、島根県出雲市ではじまった「まちあそび人生ゲーム」を岩見沢商店街に持ち込みました。岩見沢商店街の地域分析を踏まえた上、アレンジし直すことで、普段は人通りの少ない商店街に地元の人のみならず遠方からも人を呼び込む試みとして「まちあそび人生ゲーム」を開催いたしました。

この研究が実現するには、岩見沢青年会議所を中心に商店街や学生が協力をすることが不可欠でした。この研究が実現し、成功をおさめたのは、企業と学生が協力することができたからです。

○SCAN の発展ビジョン

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
釧路で SCAN 発足		理系 大学 参加	道外 大学 参加	最優秀 論文賞 設置	研究助 成研究 着手	RESAS フォー ラム 参加	札幌 移転	高校生チ ームの参 加	第1回ワ ークショ ップの開 催	第1回オン ライン合同 研究発表会
合同研究発表会を 釧路公立大学にて開催							合同研究発表会を 札幌大学で開催			合同研究 発表会を オンライン で予定
課題研究を重視				政策立案型研究にシフト			実現可能性追求研究にシフト			
単一地域・アイデア・分析重視					複数地域、 地方自治体との 連携		北海道経済産業局、 金融機関、地域企業との連携			

●事業発展将来計画

- (1) SCAN の知名度を高め、SCAN に協賛する企業、参加校、高校を増やします。
- (2) SCAN 参加校、高等学校の枠組みをつくります。
- (3) SCAN 参加校、高等学校の共同研究あるいは、参加校、高校の枠を超えた地域研究の促進を図ります。
- (4) 地域との連携を深め、課題先進地域をはじめ、地域の課題に向き合い、学生や高校生の視点から地域の問題解決行動や研究を推奨します。
- (5) SCAN 事務局機能を強化し、また SCAN 参加校、高校のネットワークを強化し、参加校からの情報提供、地域課題情報、企業依頼情報、行政関係情報の発信（イベント案内、研究会案内、研修会案内等）し、研究促進や活動促進につながる支援をします。
- (6) 実現性の高い政策提言研究の促進を図ります。
- (7) SCAN の運営を札幌大学以外でも行い、幹事校内で運営を回す輪番制を実施します。

●発展計画の概要

2017 年度事業について

2017 年度は、SCAN 札幌移転に伴い、SCAN 発展ビジョンのもと、その準備、移行期とし、以下の 3 点を重視しました。

- (1) 札幌での SCAN 知名度の向上と、行政、金融機関、地域企業との連携強化
- (2) 実現可能性の高い地域活性化、地方創生研究を行い、ビジネス機会、雇用創出に資する研究へのシフト
- (3) 実現可能性の高い研究志向の RESAS 分析フォーラムへの SCAN の接近
(北海道経済産業局との連携強化)

●2019 年度事業について

2019 年度は、さらなる SCAN の知名度を全道に広めるため、以下の 4 点を重視した活動を行いました。

- (1) SCAN 大会の発表枠組み（観光・ビジネス、産業・環境・教育、課題解決の 3 部門に分けました）
- (2) 高校生、高等学校教諭への呼びかけ、参加強化（招待チームも検討）しました。
- (3) 地域との連携を深め、地域の困りごとや課題を集約し、研究及び活動実績のある大学、高校への情報展開と呼びかけを行うための事務運営組織の機能強化を図りました。
- (4) SCAN の今後の発展ビジョンを明確化するとともに、規約の改正を行いました。

●2020 年度事業について

2020 年度は、行動が制限されるなかで、実現が可能な範囲で以下のいくつかの点に重きを置きました。

- (1) 第 1 回オンライン合同研究発表会を開催予定です。
- (2) 実現可能な領域に踏み込んだ研究活動を奨励します。
- (3) 今後も高校生チームの参加促進を図ります。
- (4) 発表のブラッシュアップを図るために、中間発表会を引き続き開催します。

2020年度 第11期 SCAN 実行委員会メンバー

役職	氏名	学年
代表	蔦井 義騎	3年
前期代表	鈴木 裕之	4年
副代表(統括)	浦川 智正	3年
副代表(渉外)	伊澤 滉二	2年
副代表(運営)	加藤 拓史	2年
副代表(会計)	蔦井 義騎	3年
副代表(広報)	掛田 直輝	2年
広報補佐	阿部 秀馬	1年

(札幌大学 地域共創学群)

○お問い合わせ

●SCAN 公式ホームページ

<http://scan-946.jimdo.com>

●SCAN ブログ

<http://ameblo.jp/gakuseiscan>

●SCAN ツイッター

https://mobile.twitter.com/scan_946

●運営本部

北海道学生研究会 SCAN 運営事務局 (札幌大学)

〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3 - 1 札幌大学

E-mail scan_su@yahoo.co.jp / Mobile phone

学生代表 蔦井 義騎

E-mail naka-ken@sapporo-u.ac.jp /研究室 TEL & FAX 011-852-9015)

顧問 中山 健一郎

(札幌大学地域共創学群 教授)

北海道学生研究会

SCAN